

## 緑茶フラボノール配糖体のガラクトサミン肝障害抑制効果

○和田真吾、足立純一、何 普明、渡邊修治、杉山公男  
(静大農・応生化)

### 【目的】

我々は緑茶成分の肝障害抑制効果を *i n V i V O* の実験系で検討しており、これまでの実験で緑茶のブタノール抽出画分にD-ガラクトサミン誘導性肝障害を抑制する活性が存在することを確認している。本研究では同画分から活性物質の単離・同定を行うことを目的とした。

### 【方法】

緑茶(煎茶)の熱水抽出物をクロロホルム、酢酸エチルに続いてブタノールで抽出した。ブタノール抽出画分をシリカゲルおよびトヨパールHW-40を用いたカラムクロマトグラフィーでいくつかの画分に分けた。ただ一つの画分に活性が見られたので、この画分を大量に調製し大型のODSカラムを用いて5つに分画した。5週齢のウィスター系雄ラットを実験動物として用いた。基本食に各画分の粉末を添加してラットに8~10日間与えたのち、D-ガラクトサミンを腹腔内注射し、22時間後に解剖した。肝障害の指標として血漿のGPTおよびGOT活性を測定した。

### 【結果】

シリカゲルおよびトヨパールHW-40を用いたカラムクロマトグラフィーで分画した画分のうち、フラボノール配糖体を高純度で含む画分のみが有意な肝障害抑制活性を示した。ODSカラムで分離した5画分のうち4画分はほぼ純粋なものであった。これら5画分を食餌に0.1%添加し活性試験を行ったところ、いずれの画分も有意な肝障害抑制効果を示した。これらの結果から、フラボノール配糖体は緑茶の肝障害抑制効果に寄与していることが分かった。

・  
・  
・